

一般研究集会（課題番号：2019K-10）

集会名：都市域での水難事故発生の危険性の解明とその対応策

主催者名：土木学会地下空間研究委員会防災小委員会

研究代表者：戸田 圭一

所属機関名：京都大学経営管理大学院（併任 京都大学大学院工学研究科）

所内担当者名：馬場 康之

開催日：令和元年 12 月 14 日

開催場所：京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザセミナー室 4, 5

参加者数：49 名（所外 46 名，所内 3 名）

- ・大学院生の参加状況：10 名（修士 9 名，博士 1 名）（内数）
- ・大学院生の参加形態 [聴講での参加]

研究及び教育への波及効果について

研究集会は公開とし、関心のある一般市民や行政の防災担当者、地下街管理者、民間の技術者なども自由に参加できる。また概要集を編集して無料配布することにより、研究成果の社会への還元の意味合いも含めている。研究集会で得られる知見や提言は、研究者の今後の研究のみならず、防災に関する実務面においてもきわめて有用なものとなる。

研究集会報告

(1) 目的

集中豪雨下、都市域ではその特性から、思わぬ時に思わぬところで水難事故が発生する。街の用水路や側溝、小河川への転落、窪地やアンダーパスでの車による水難事故、地下室や地下駐車場での浸水事故などが顕在化してきている。ここでは、人や車に関する水難事故の発生や浸水時の人間の避難行動に関する最近の研究成果について話題提供をいただき、それらを基に今後取り組むべき課題やその対応策について総合的な議論を展開する。

(2) 成果のまとめ

水難事故発生の危険性の解明とその対応策は時宜を得たテーマであり、合計で 49 名の参加者があった。研究集会は公開で行い、大学の研究者や大学院生のみならず、行政の防災担当者、コンサルタントなどの技術者、報道関係者にも多数参加いただいた。まず、5 名の研究者から貴重な話題提供の講演をいただいた。それらを基に、水難事故に関連する水害やその対応策について、今後の研究の在り方や方向性について、活発な議論を行うことができた。

(3) プログラム

令和元年 12 月 14 日（土）

13：15-13:20：開会 主旨説明（戸田圭一（京都大学大学院工学研究科））

13：20-13：50：石垣泰輔先生（関西大学） 「地上および地下の浸水と課題」

13：50-14：20：馬場康之先生（京都大学防災研） 「地下浸水時の体験型避難実験」

14：20-14：50：原田英治先生（京都大学大学院工学研究科） 「地下街での群集避難、流水中の歩行のシミュレーション」

14：50-15：10：休憩

15：10-15：40：岡本隆明先生（京都大学大学院工学研究科） 「河川・側溝・用水路での水難事故の危険性に関する実験的研究」

15：40-16：10：小松利光先生（九州大学） 「都市域への河川水氾濫による大規模災害の危険性の解明とその対策」

16：10-16：30：総合討論（20 分）

閉会

(4)研究成果の公表

研究資料集を作成して、当日の参加者および防災研究に従事する関係者に配布した。